

一生涯を通した歯科保健対策の確立をめざして (1)

—— フッ素利用を中心にした乳歯・永久歯のう蝕予防対策 ——

組織 富岡甘楽歯科医師会 公衆衛生委員会
 ○萩原吉則 大貫徳夫 茂木忠泰 守谷豪人

1 はじめに

富岡甘楽地区は、県の南西部に位置し、北西に妙義山、西に荒船山、南に稻含山が連なり、南西部は山岳丘陵地帯、北東部は平坦地となっています。圏域は、富岡市、甘楽町、下仁田町、妙義町、南牧村の1市3町1村で構成されています。平成8年4月1日現在の人口は85,964人です。(富岡市 49,622人 甘楽町 14,766人 下仁田町 12,442人 妙義町 5,169人 南牧村 3,965人)

富岡甘楽歯科医師会は、地区内の会員37名(平成8年9月現在)から構成される小さな歯科医師会です。平成4年5月に完成した、富岡甘楽口腔保健センターに事務局を置き、地域の歯科保健の充実をめざしています。歯科医師会には、事務長と歯科衛生士2名(常勤1名・非常勤1名)が勤務しています。

富岡甘楽歯科医師会では、平成5年に公衆衛生活動の目標を具体化した「各ライフステージにおける歯科保健対策(8020運動の目標を達成するための歯科保健対策)」を立案し、一生涯を通した歯科保健システムの確立をめざしています。その対策の内容は、乳歯のう蝕予防対策、永久歯のう蝕予防対策、児童・生徒の歯肉炎予防対策から始まり、成人・高齢者の歯科保健対策、訪問歯科診療、心身障害者(児)の歯科診療までを包括する総合的なものです。その中でも子供たちのう蝕予防は、その後の歯科保健対策の基礎となる、最も重要な課題として位置づけられています。う蝕予防対策の成否が、その後の歯の寿命を大きく左右します。

今回は、富岡甘楽地区で現在実施されているう蝕予防対策の成果について紹介いたします。

2 富岡甘楽地区で実施されているう蝕予防対策

(1) 乳歯のう蝕予防対策

全市町村で、乳歯のう蝕予防対策として、従来の歯科保健対策の充実に加えて「フッ素塗布」を採用しました。(表1) 定期的なフッ素塗布を可能にするため、市町村ごとに、1歳から3歳児まで、3ヵ月から6ヵ月間隔のリコールシステムが整備されています。さらに希望者には、「家庭でのフッ素利用」を紹介しています。

また、富岡保健所では、市町村の健診でスクリーニングされたハイリスク児を対象にした「母子歯科クリニック」が開催されています。

乳児健診、1歳6ヵ月児健診、3歳児健診などの事業と連携して活用することにより、地域全体のう蝕予防システムとして円滑に機能しています。

① フッ素塗布の方法

フロアゲルを綿球法で塗布
 (下仁田町では、平成2年までフローデンAを使用)

② 家庭でのフッ素利用の紹介と薬局での販売

- フッ素洗口液(ミラノール)の利用
 指示書により薬局でも販売(薬剤師会の協力)
 うがいのできる子供 フッ素洗口
 うがいのできない子供 歯ブラシで塗布
- フッ化物溶液スプレー(レノビーゴ)の利用
- フッ素入り歯みがき剤の利用

表1 フッ素塗布開始年度

市町村	施設	開始年度
下仁田町	幼児健診	昭和63年
甘楽町	むし歯予防教室	平成2年
妙義町	むし歯予防教室	平成4年
富岡市	にこにこ教室	平成5年
南牧村	むし歯予防教室	平成5年

表2 富岡甘楽地区幼稚園・保育園 フッ素洗口開始状況(施設数)

開始年度	富岡市	甘楽町	下仁田町	妙義町	南牧村	合計
昭和61年		4				4
平成4年	2					2
平成5年	3		5	3	2	13
平成6年		1				1
平成7年	8					8
平成8年	3					3
実施数	16	5	5	3	2	31

表3 フッ素洗口液のフッ素濃度と洗口頻度

対象	洗口回数	フッ化ナトリウム水溶液濃度
保育園・幼稚園	毎日(週5日)法	0.05%
小学校・中学校	週1回法	0.2%

(2)フッ素洗口を中心にした永久歯のう蝕予防対策

永久歯のう蝕予防対策としては、従来の歯科保健対策の充実と同時に「フッ素洗口」の普及をめざしています。

フッ素洗口は、昭和61年度に甘菜町立の4幼稚園で最初に開始されました。平成4年度からは、富岡甘菜地区の全市町村で急速に普及しました。(表2)

平成8年9月現在、富岡甘菜地区の保育園・幼稚園32園中の31園で、およそ1390名の園児がフッ素洗口を実施しています。希望者が対象ですが実施率は95%を超えています。

(ミラノール集団洗口用5gを用いて、週5回法で実施(表3))

(3)歯科衛生士による巡回歯科保健指導

全市町村で歯科衛生士による指導が実施されています。対象は、保育園・幼稚園の園児と保護者、小学校・中学校の児童生徒です。目的は子供たちの歯肉炎とう蝕の予防ですが、将来は歯周炎予防につながることを期待しています。また歯科衛生士による指導は、フッ素入り歯磨剤の使用など、う蝕予防に対する正確な知識の普及啓発にも、大きな役割を果たしています。

3 結果と考察

(1)富岡甘菜地区は、以前から3歳児のう蝕罹患率が高く、県内12保健所中最下位という状況でした。健診、口腔衛生指導を中心にしたう蝕予防対策を実施してきましたが、あまり成果が上がりませんでした。そこで、従来の対策に加えて、フッ素塗布とリコールシステムを採用しました。その結果、全市町村で3歳児のう蝕罹患状況が大幅に改善しました。(表4・表5)

(2)甘菜郡内の保育園・幼稚園では、全施設(15園)でフッ素洗口を実施しています。その結果、平成7年度には、甘菜郡の小学校1年生と2年生の永久歯のう蝕罹患状況が大幅に改善して、DMFT指数・DMF者率とも郡市別で県内1位になりました。2年後には富岡市でも結果が出ると思います。

(3)フッ化物の利用は、すぐれた公衆衛生的方法として世界中でさまざまな形で応用され、先進国における急速なう蝕の減少に大きく貢献しています。(表7)富岡甘菜地区においても、フッ素利用の有用性が確認されました。

4 今後の課題

富岡甘菜歯科医師会では、平成7年に幼稚園・保育園の保護者を対象にした「歯科保健に関するアンケート」を実施し、2070人から回答をいただきました。その結果、9割以上の保護者が「小学校でのフッ素洗口実施」を希望していることがわかりました。

富岡甘菜歯科医師会は、富岡市甘菜郡医師会・富岡甘菜薬剤師会と連名で「フッ素洗口法の学校歯科保健への導入についての陳情書」を5市町村に提出しました。その結果、下仁田町・妙義町で採択、甘菜町で趣旨採択になりました。歯科医師会・医師会・薬剤師会の推奨、市町村保健担当課の積極的な取り組みに加え、住民の支持があることも判明しました。今後は学校関係者の協力を得て、ぜひ小中学校でもフッ素洗口を開始できるようにしたいと考えています。

表4 富岡保健所管内 3歳児健診の結果

年度	dfT指数(本)	df者率(%)
昭和60年	5.24	77.8
61年	4.92	77.7
62年	5.11	76.0
63年	5.43	78.3
平成元年	4.91	78.8
2年	5.00	74.3
3年	4.99	76.4
4年	4.61	73.0
5年	4.04	67.9
6年	3.08	57.0
7年	2.33	48.0

表5 富岡保健所管内 3歳児健診の結果(市町村別)

一人当たりのむし歯本数(本)

	昭和63年	平成3年	平成7年
富岡市	5.13	4.93	2.31
甘菜町	5.51	4.89	2.38
下仁田町	6.29	4.10	2.08
妙義町	4.34	6.16	3.05
南牧村	6.37	7.66	2.64
富岡保健所	5.43	4.99	2.33
群馬県	3.63	3.31	2.66

表6 平成7年度歯科保健調査結果(小学校) 抜粋

郡市名	DMFT指数(本)		DMF者率(%)	
	1年	2年	1年	2年
富岡市	0.33	0.83	28.7	42.0
甘菜郡	0.17*	0.46*	10.7*	25.1*
群馬県	0.29	0.72	15.8	33.5

注)*印は郡市別県1位

表7 世界的規模で用いられている各種のフッ化物応用と対象人数についての推計値(WHO)

フッ化物配合歯磨剤	5億人
水道水フッ化物添加	2億1000万人
フッ化物添加食塩	4000万人
フッ化物錠剤・ドロップ	2000万人
フッ化物洗口	2000万人
臨床でのフッ化物塗布	2000万人